

シクリスムエコーNo.77 2001年6月号

6th TOUR OF JAPAN	2	2001パンパシフィックBMX 選手権上越大会	13
第70回全日本アマチュア自転車選手権トラックレース ..	4	競技大会結果	14
第48回全日本プロ選手権自転車競技大会	6	加盟団体住所変更のお知らせ	16
2001年UCIトラックワールドカップ第1戦代表選手団 ..	7	事務局人事移動	16
2001年JOCジュニアオリンピックカップ自転車競技大会 ..	8	前号の訂正	16
TOUR DE KOREA-MBC Cheong-Ju ジュニアロード ..	10	連盟の動き	16
連載企画アンチ・ドーピングについて	12	編集後記	16

6th TOUR OF JAPAN 宇都宮ステージのスタート前



全日本チャンピオン・ジャージの阿部(コルパック)

前日ステージ優勝で、この日ポイント賞ジャージを着るスタファイエイ(ムロス)

個人総合優勝のニエツビエツキ(ムロス)

6th TOUR OF JAPAN

個人総合と団体総合を手中にしたムロズチーム



第1戦 大阪ステージ 5月20日(日)
堺市泉北周回コース
12.80km x 11周 = 140.80km

ポーランドのニエツピエツキが ステージV

第6回ツアー・オブ・ジャパン(6ステージ総距離853.36km)が大阪ステージで開幕。16チーム、合計90選手がスタートし、140.80kmの高速レースに挑んだ。正午のスタート時の気温は26.3。初夏を思わせる暑さのなかで、時おり乾いた風もふきつけ、選手の動きを活発化させた。レースは、ゴールまで76.8kmとなる残り6周で狩野智也、山本雅道らシマノレーシング勢を含む18選手が逃げを決めた。この集団は、後続に一時4分差をつけ、ゴール勝負の様相を呈した。ここでムロズチームがとった作戦は、スプリンターのダリウシュ・スコチラスを勝たせようと、ニエツピエツキにアタックさせることだったようだが、一瞬のすきをついたニエツピエツキがそのままゴールに飛び込んで初戦を飾った。

第2戦 奈良ステージ 5月21日(月)
東大寺大仏殿～布目ダム周回コース
6.40km + 10.10km x 12周 = 127.6km
グレース・ミラー、3回目のステージV

午前9時に世界遺産の東大寺大仏殿前をスタートした89選手は、布目ダムまでの18.6kmをパレードし、起伏に富む山岳コースに突入。ここで福島康司(スミタ・ラバネロ)がアタックし、およそ4周回を独走。しかし後続集団から、

山岳ポイントをねらったアラン・デビス(オーストラリア)らが飛び出し、集団がペースアップ。福島を吸収し、勝負は振り出しに戻った。デビスはさらに山岳ポイントを稼ぎ、赤い山岳ジャージーを獲得。混戦の中から抜け出した4人の先頭争いとなったレースは、最後のスプリントでスプリンターのミラー(ニュージーランド:40歳)が抜け出して、ツアー・オブ・ジャパン3勝目を飾った。

第3戦 修善寺ステージ 5月23日(水)
日本CSC 12.20km x 10周 = 122.00km
カルカーニ、

豪雨の最難関ステージを制す!

修善寺ステージは大粒の雨が強い風に吹かれてたたきつけるという厳しい天候。加えて、ヨーロッパでも類を見ないほどのアップダウンが待ち受けるハードコースに、各選手は過酷なサバイバルレースを余儀なくされた。レースは、赤い山岳ジャージーを着たアラン・デビス(オーストラリア)が、前ステージの落車の影響が残りながらも山岳ポイントを上乘せし、山岳賞トップを守った。アタックしたのは残り20キロ。これにムロズのスタフィエイとワデツキが反応して、3人の先頭集団を形成。独走する余力を残しながら、カルカーニは最後まで冷静に機会をうかがった。ステージ優勝争いは残り2周で、カルカーニ、カジメシュ・スタフィエイとアダム・ワデツキのポーランド・ムロズ勢に絞り込まれ、ゴールスプリ

ントでカルカーニが優勝した。総合トップのニエツピエツキを含む大集団も、致命的な差に広げられないままゴール。日本勢のトップは12位の橋川健(ブリヂストン)。

第4戦 茂木ステージ 5月25日(金)
ツインリンクもてぎ周回コース
12.38km x 12周 + 4.80km = 153.36km
ムロズ圧勝。

スタフィエイが2度目のステージ勝利!

茂木ステージは、2日前の修善寺とは違って変わっての好天。レースは序盤から飯島誠(スミタ・ラバネロ)、新保光起(愛三工業)らがアタック。しかしグリーンジャージーを持つムロズ勢が集団をコントロールして逃がさない。結局、混戦を抜け出したスタフィエイとラルス・トイテンベルク(リジダDPX・ピアンキ)の一騎討ちとなり、スタフィエイが先着した。総合成績で日本勢のトップは橋川健(ブリヂストン)で、トップから12秒遅れの5位につける。チームメートの田代恭崇や福島晋一も好調で、宇都宮ステージで逆転の可能性も残る。この日のレースで廣瀬佳正が負傷してリタイアしてしまったが、残る4人で橋川をアシストし、日本勢悲願の総合優勝をねらう。



茂木ステージを制したスタフィエイ(ムロズ)

第5戦 宇都宮ステージ 5月26日(土)
宇都宮市森林公園周回周回コース
10.30km x 15周 = 154.50km

トイテンベルク、山岳を制す。

前日のリベンジを達成!

宇都宮ステージは、最後の山岳ステージとあって、序盤から積極的なアタックが展開された。1周目から鈴木

真理(シマノ)、田中光輝(愛三工業)、パトリック・カルカーニ(タッコニススポーツ)の3選手がアタック。鈴木が2度の山岳ポイントを1位で通過し、一時山岳賞トップに立ったが、3度目の山岳ポイントでアラン・デイビス(オーストラリア)が逆転した。

リジダDPX・ピアンキに所属するラルス・トイテンベルクが4時間07分47秒で優勝。前日のステージでは、2人でアタックを決めながらも1人が先頭交替を拒んだことで体力をロスして勝利を逃したが、この日はラスト2周から独走を決め、力強いガッツポーズでフィニッシュを決めた。

第6戦 東京ステージ 5月27日(日)
日比谷シティ前 大井埠頭周回コース
18.60km + 10.50km × 13周 = 155.10km

ブラウン、東京を制す。

ニエツピエツキ総合優勝!

最終東京ステージは、小雨まじりの天気となったが、このなかを飯島 誠(ミタ・ラバネロ)と岡崎和也(キナン・マリシ)が果敢にアタック。しかしグリーンジャージーを守ろうとするムロズチームの追撃で吸収された。平坦な路での高速レースは、グラム・ブラウン(オーストラリア)が大集団のゴールスプリントを制して優勝。パベル・ニエツピエツキ(ムロズ)はトップと同タイムの27位でゴール。ニエツピエツキは6日間の合計タイムで2位に21秒差をつけて個人総合優勝を達成した。ムロズチームは鉄壁のチームプレーを見せて団体優勝も決めた。

(山口 和幸・TOJニュースより抜粋)

[競技結果]

第1ステージ (140.80 km)

1	NIEDZWIECKI Pawel	MRO	3:01:54
2	SCHUMANN Dirk	RDB	3:01:56
3	SKOCZYLAS Dariusz	MRO	3:01:56
4	山本 雅道	SMN	3:01:56
5	ZUCCONI Pietro	TAC	3:01:56
6	三浦 恭資	KIN	3:01:56
7	KALENDA Michal	WUS	3:01:56
8	DAVIS Scott	AUS	3:01:56
9	橋川 健	BSA	3:01:56
10	CAPPELLE Andy	SAI	3:01:56

第2ステージ (127.60 km)

1	MILLER Graeme	NZL	3:07:24
2	MROZ Mateusz	MRO	3:07:29
3	LALOUX Guillaume	SAI	3:07:32
4	STAFIEJ Kazimierz	MRO	3:07:35
5	ZUCCONI Pietro	TAC	3:07:56
6	NIEDZWIECKI Pawel	MRO	3:07:56
7	CHOI Soon-Young	KOR	3:07:56
8	鈴木 真理	SMN	3:07:56
9	TEUTENBERG Lars	RDB	3:07:56
10	橋川 健	BSA	3:07:56

第3ステージ (122.00 km)

1	CALCAGNI Patrick	TAC	3:52:15
2	STAFIEJ Kazimierz	MRO	3:52:15
3	WADECKI Adam	MRO	3:52:26
4	CHUN Dae-Hong	KOR	3:52:31
5	TEUTENBERG Lars	RDB	3:52:31
6	LALOUX Guillaume	SAI	3:52:52
7	YATES Jeremy	NZL	3:53:14
8	NIEDZWIECKI Pawel	MRO	3:53:30
9	DAVIS Allan	AUS	3:53:30
10	SKOCZYLAS Dariusz	MRO	3:53:30

第4ステージ (153.36 km)

1	STAFIEJ Kazimierz	MRO	3:39:41
2	TEUTENBERG Lars	RDB	3:39:41
3	BROWN Graeme	AUS	3:39:48
4	NIEDZWIECKI Pawel	MRO	3:39:48
5	SCHUMANN Dirk	RDB	3:39:48
6	APOLLONIO Massimo	TAC	3:39:48
7	WADECKI Adam	MRO	3:39:48
8	渋谷 淳一	BSA	3:39:48
9	ASSEZ Ronny	FLA	3:39:48
10	MILLER Graeme	NZL	3:39:48

第5ステージ (154.50 km)

1	TEUTENBERG Lars	RDB	4:07:47
2	NIEDZWIECKI Pawel	MRO	4:09:03
3	MILLER Graeme	NZL	4:09:12
4	DAVIS Scott	AUS	4:09:12
5	CHUN Dae-Hong	KOR	4:09:12
6	坂口 博	AIS	4:09:12
7	STAFIEJ Kazimierz	MRO	4:09:12
8	PELUSI Seth	FLA	4:09:12
9	LACIAK Martin	WUS	4:09:12
10	ZUCCONI Pietro	TAC	4:09:12

第6ステージ (155.10 km)

1	BROWN Graeme	AUS	3:30:36
2	MILLER Graeme	NZL	3:30:36
3	SCHUMANN Dirk	RDB	3:30:36
4	GILI Marco	TAC	3:30:36
5	宮澤 崇史	NHD	3:30:36
6	ASSEZ Ronny	FLA	3:30:36
7	CAPPELLE Andy	SAI	3:30:36
8	橋川 健	BSA	3:30:36
9	三浦 恭資	KIN	3:30:36
10	CUPPENS Tjarcio	FLA	3:30:36

個人総合時間順位

1	NIEDZWIECKI Pawel	MRO	21:22:37
2	ZUCCONI Pietro	TAC	21:22:58
3	DAVIS Scott	AUS	21:22:58
4	橋川 健	BSA	21:22:58
5	坂口 博	AIS	21:22:58
6	CAPPELLE Andy	SAI	21:23:03
7	狩野 智也	SMN	21:23:03
8	GUYTON Scott	FLA	21:24:04
9	TEUTENBERG Lars	RDB	21:24:43
10	STAFIEJ Kazimierz	MRO	21:25:27

個人総合ポイント賞

1	MILLER Graeme	NZL	12 p
2	NIEDZWIECKI Pawel	MRO	11 p
3	STAFIEJ Kazimierz	MRO	11 p
4	TEUTENBERG Lars	RDB	10 p
5	BROWN Graeme	AUS	8 p
6	SCHUMANN Dirk	RDB	8 p

個人総合山岳賞

1	DAVIS Allan	AUS	18 p
2	鈴木 真理	SMN	17 p
3	STAFIEJ Kazimierz	MRO	14 p
4	CALCAGNI Patrick	TAC	9 p
5	福島 康司	RVN	5 p
6	YATES Matthew	NZL	3 p

個人総合スプリント賞

1	YATES Matthew	NZL	11 p
2	SKOCZYLAS Dariusz	MRO	10 p
3	岡崎 和也	KIN	10 p
4	狩野 智也	SMN	8 p
5	STAFIEJ Kazimierz	MRO	5 p
6	新保 光起	AIS	5 p

団体総合時間賞

1	MROZ-SUPRADYN WITAMINY	64:13:35
2	SAINT-QUENTIN-OKTOS	64:16:56
3	SHIMANO RACING TEAM	64:19:19
4	BRIDGESTONE-ANCHOR	64:21:54
5	KINAN-MARUISHI	64:35:47
6	TACCONI SPORT-VINI CALDIROLA	64:38:47

東京ステージで果敢に逃げる飯島(右)と岡崎



第70回全日本アマチュア自転車選手権トラックレース



選手宣誓

アマチュアの歴史を積み上げて今回で第70回と、大きな節目を迎える伝統、由緒ある大会が、さつき晴れの5月12・13日、静岡市の静岡競輪場(周長400m)を会場に開催された。

女子500mタイムトライアル

社会人となった太刀川麻也(茨城)が安定した強さを見せての五連覇。前々回の自己の大会記録に及ばなかったものの唯一人37秒台。この種目未だ敵なしか。

男子1kmタイムトライアル

前回の高知大会で優勝した福井(鳥取)が最終組でスタート。期待されたがまさかの不発。若手陣が上位を占めた。優勝した大森慶一(北海道)の強さが目立ったが、大会記録には及ばなかった。

男子40kmポイントレース

坂口博(愛知)と西谷(広島)が引っ張り、2人を吉井(東京)や武蔵(高知)らが追うかたちでレースが進行した。吉井が、愛三工業(坂口、楠本)が……小さな逃げが何度も繰り返されたが決まらない。それでも中盤には2人のトップ争いと、それにちゃんと吉井が絡んでの三つ巴の形ができあがっていた。が3人の思惑がまとまらず半端な走りメインから逃げ切れない。16・17回目のポイントが続けて取った坂口が一步リード。スタミナの切れはじめた西谷に代って吉井が浮上、これを追うが19回目のポイントも坂口に許す。これでゴールを待たずに坂口の2年連続優勝が決まる。高島(埼玉)も健闘して4位に入っている。

女子3km個人追抜競走

成長著しい木村春恵(青森)との決勝の相手は、予選タイム3位から勝ち上がってきた斎藤(秋田)だった。木村は前半リードを許したものの落ち着いた

走りで見事に追いつき、初優勝した。

男子4km個人追抜競走1/2決勝では吉井(東京)が整備不良で走ることなく敗退というハ

プニング。回った3・4位決定戦では後半追いついて意地を見せたが届かず、前大会と同じ4位に。実力通りの対戦となった黒木裕介(宮崎)と坂口(愛知)との決勝は、出足よく飛び出した坂口だったが、中盤から追いついた黒木にそのままリードを許してしまった。

男子ケイリン

この種目を得意とする小池(愛媛)、矢野(高知)は予選落ち。チームメイトの百々(三重)が敗者復活から上がってきた。ペーサーが退避した残り一周半、百々、石丸、塩原、吉田、中村、榎崎、小野、松本と一列棒状。塩原、中村が互いに譲らぬのを見て百々が仕掛ける。中村、榎崎、石丸が追う。敗者復活戦から勝ちあがった小野旭裕(兵庫)が、2コーナー大外(おおそと)から飛び出してそのままゴールへ差し込んでの嬉しい優勝。またしても学生にやられた実業団だが、ベテラン塩原が小野の肩をたたいていた。

女子ポイントレース

集団が大きく崩れることなく坦々とレースは進んだ。前半、中村(奈良)、大塚(大分)らもよく走り、ポイントを取り合っていたが、偶数回のポイントで1着をきっちり押さえ、効率良く稼いだ木村春恵(青森)が徐々にリードをひろげる。ベテラン森本(鳥取)が意地を見せての猛追。7回目のポイントに藤原(新潟)も絡んで、その2人が木村に4点差まで迫り逆転優勝の可能性もあった。し

かしあと5周で斎藤、中村の順天堂大コンビの飛び出しを許したのが誤算となる。その後一人で逃げた斎藤がフィニッシュした時点で、木村の優勝が決まった。

男子オリンピックスプリント

1周目を同タイムで通過して場内を沸かせた3・4位決定戦は、地元静岡岡県チームをおさえて、高体連チームが辛勝。中国チーム打倒に燃える小池は若手を擁しての3度目の挑戦となるが健闘及ばず、愛媛県チームは僅差で2位に。中国チームは昨年と同じメンバー、福井、塩原、吉田で4連覇を達成した。

男子マディソン

2年ぶりのレースに7チームが出場した。早々と落車により片岡が脱落し、実業団選抜Dの藤原は苦戦。愛三工業の坂口博、楠本正昭の愛知チームはスタートから快調にとばし先頭を走り続けた。中盤には2位の東京チームをもラップしすべてのチームを周回遅れとし楽勝パターンに。後半、交替に失敗して坂口が転倒。ヒヤットとする場面もあったが楠本が踏んばって先頭をキープして坂口の復帰を待った。終わってみれば愛知のチームワークが、全てのポイントを取っての完全優勝だった。

女子スプリント

1/2決勝。1本目は中尾(奈良)に許したものの2本目で1勝1敗とし、高校生遠藤(大分)は3本目を微差でとり決勝へ。3・4位決定戦では先行策をとった大森(北海道)だが2本とも中尾に追い込まれて4位に。決勝はゆっくり先行する遠藤を嫌った太刀川麻也(茨城)が先行して、あっさり逃げきりの1本目。2本目もながし先行のまま入って余裕の3連覇、今大会も2冠を達成した。



ケイリン



マディソン

男子スプリント

順風を思わせた1/8決勝。1/4決勝では予選タイム2位の大崎(愛媛)が敗者復活からの湯原(長野)と対戦しまず1勝。2本目も先着するが降格となつての3本目、これを落としまさかの敗退。復活した湯原はその後3位へ勝ち上がった。1/2決勝、1本目をとった三宅(三重)だったが、スタミナ不足か2本目、3本目は植木(神奈川)に先行されて決勝へ進めなかった。互角と思われた石橋慎太郎(静岡)と植木との決勝戦は、自在な走りですべて2本ともあっさり先行し逃げ切った石橋が地元の意地を見せた。

男子4km団体追抜競走

事故で高体連チームが出走できなかったのが残念。学連チームは平凡なタイムながら順当に勝ち上がったの4連覇。昨年は日本大学勢だったが、今年は法政大学のメンバーで達成した。

岡本副会長の挨拶にあったように、記録的に、内容的に低迷の感が否めない。4コーナーで2日間、選手を見守っていた「NEWわかふじ国体」の旗が「ガンバレ!」と言っている。(山根 博敏)

[競技結果]

男子1kmタイムトライアル

1	大森 慶一	北海道	ハイクスFM	1:06.218
2	岡本 大嗣	愛媛	イクッ U	1:07.813
3	篠原 忍	群馬	中央大学	1:08.281
4	西村 行貴	熊本	開新高校	1:09.513
5	今泉 薫	群馬	前橋工業高	1:10.651
6	竹沢 浩司	富山	日本大学	1:10.851

男子スプリント

1	石原慎太郎	静岡		
2	植木 和広	神奈川	中央大学	
3	湯原 正行	長野	サイクルインド	
4	三宅 裕武	三重	サイクルクラブ アシックスFET	
5	塩原 正長	広島	アキス乳業	
6	大崎飛雄馬	愛媛	イクッ U	

男子4km個人追抜

1	黒木 裕介	宮崎	法政大学	4:55.342
2	坂口 博	愛知	愛三工業	4:56.703
3	伊藤 太一	山梨	日本大学	5:02.030
4	吉井 功治	東京	日本舗道	5:03.644
5	盛 一大	茨城	日本大学	5:06.874
6	佐藤 友和	岩手		5:10.193

男子ボイトレース(40km)

1	坂口 博	愛知	愛三工業	50 p
2	吉井 功治	東京	日本舗道	39 p
3	西谷 泰治	広島	日本大学	30 p
4	高島 豪	埼玉	小松原高校	22 p
5	三上 広	青森	法政大学	20 p
6	鈴木 涼平	宮城	中央大学	19 p

男子ケリ

1	小野 旭裕	兵庫	京都産業大学	
2	吉田 康則	岡山	三菱化学物流	
3	塩原 正長	広島	アキス乳業	
4	檜崎 雅也	宮崎	日本大学	
5	百々 敦史	三重	サイクルクラブ アシックスFET	
6	石丸 健次	千葉	BMLレーシング	

男子リベックスプリント

1	中国選抜	福井・塩原・吉田	1:21.212
2	愛媛	小池・岡本・大崎	1:21.235
3	高体連	青木・今泉・西村	1:21.989
4	静岡	石橋・鈴木・櫻井	1:22.075

男子4km団体追抜

1	学連	三上・岡田・黒木・福留	4:39.535
2	広島	吉野・西谷・福本・吉井	4:43.760
3	富山	竹沢・岡部・鈴木・廣瀬	4:53.103
4	福島	圓谷・近藤・坂本・明珍	4:58.897

男子マディソン

1	愛知	坂口・楠本	55 p
2	東京	吉井・水沢	(-1)8 p
3	実業団E	秋田・郡山	(-2)6 p
4	実業団F	藤田・小林	(-3)4 p
5	実業団A	班目・矢内	(-5)8 p
6	実業団B	高橋・坂本	(-6)11 p

女子500mタイムトライアル

1	太刀川麻也	茨城	M Project	37.879
2	篠崎 新純	千葉	千葉経済高校	38.705
3	中尾 友美	奈良	筑波大学	38.743
4	大森 恵	北海道	函館大谷高校	38.910
5	遠藤 友子	大分	別府商業高校	39.097
6	大塚 恵美	大分	明治大学	41.854

女子スプリント

1	太刀川麻也	茨城	M Project	
2	遠藤 友子	大分	別府商業高校	
3	中尾 友美	奈良	筑波大学	
4	大森 恵	北海道	函館大谷高校	
5	篠崎 新純	千葉	千葉経済高校	
6	藤原亜衣里	新潟	法政大学	

女子3km個人追抜

1	木村 春恵	青森	八戸大学	4:14.843
2	斎藤 綾	秋田	順天堂大学	4:15.375
3	中村 珠藻	奈良	順天堂大学	4:16.377
4	杉村 久美	岩手		4:18.300
5	村中恵美子	東京	サキヨミツリ	4:16.911
6	高島美咲紀	鳥取	倉吉西高校	4:27.149

女子ボイトレース(16km)

1	木村 春恵	青森	八戸大学	23 p
2	森本 朱美	鳥取	若桜中学校(教)	17 p
3	斎藤 綾	秋田	順天堂大学	15 p
4	藤原亜衣里	新潟	法政大学	13 p
5	杉村 久美	岩手		12 p
6	中村 珠藻	奈良	順天堂大学	11 p

KEIRIN
00 競輪補助事業

SHIMANO®

ペダリングセクション重視



SPD
SHIMANO PEDALING DYNAMICS

株式会社シマノ 〒590-8577 堺市老松町3丁77番地 「お客様相談窓口」電話 0722-43-2829
当社の自転車部門の製品カタログご希望の方は、「カタログ希望」と明記し、300円切手同封の上、
〒590-0944 堺市柳屋町東1-1-1「シマノクラブPRセンター」宛にご郵送下さい。
シマノ自転車製品は、インターネットホームページ「http://cycle.shimano.co.jp」でもご覧になれます。

乗車したまま走りきるコースレアウトがマウンテンバイクレースの世界的な流れになっています。そこで、シマノはよりペダリングを重視したSPDシューズをリリースしました。

高強度カーボンソール搭載
軽量シューズ

SH-M220

¥17,800

標準小売価格(税別)



泥づまりしにくい
シリーズ最軽量ペダル

PD-M858

¥12,600

標準小売価格(税別)



第48回全日本プロ選手権自転車競技大会



スプリント交歓競技のプラン(手前)とクアリー(シドニー1km金メダリスト)

今回で48回を数えるプロ競輪選手による自転車競技大会・第48回全日本プロ選手権自転車競技大会・トラック競技は、平成13年5月12日(土)・13日(日)の両日、愛知県・一宮競輪場で開催された。2日間とも絶好の好天に恵まれ早朝から詰め掛けたファンの見守る中、出場選手はそれぞれの種目に熱戦を展開した。一方、国際競輪に出場した外国人選手が交歓競技のスプリントレースや1kmタイムトライアル、オリンピックスプリントに出場、ファンに拍手を求めるなどジェスチャーたっぷりに自転車競技の楽しさをアピールした。なお、一宮競輪場での全プロ開催は第12回大会(昭和40年5月)以来2度目。

- 第1日 -

スプリント予選200mタイムトライアルから競技はスタート。群馬の金古真也が一番目にトライ。小嶋敬二、有坂直樹、横田努といった競輪選手の有力どころと外国人選手を交えた27選手が力走する。6番目にスタートした伊勢崎彰大が10秒750の好タイムを記録。この種目得意な布居寛幸、川原義哲、若松将弘、山田英樹らと2名の外国人選手も強く10秒8台を記録し、昨年度チャンピオンの金子貴志の登場を待った。最後にトライした金子は躍動感溢れる力走であっさり10秒578を記録、群を抜いた一番時計で他選手にプレッシャーを掛けた。外国人選手が金子の顔を驚いたように見ていたのが印象的だった。続いて1/8決勝が行われ、金子、伊勢

崎、小嶋、小川圭、山田英、渡辺晴、布居、川原ら8選手が順当に勝ち上がり第2日の1/4決勝に進んだ。

第1日はスプリントのほか、4km団体追抜競走予選4レース、4km個人追抜競走予選9レース、1kmタイムトライアル決勝、ケイリン予選5レース等が行われた。

決勝種目の1kmタイムトライアルには交歓競技で参加の前世界記録保持者、シェーン・ケリー(オーストラリア)を含む18選手が挑戦した。第1走者の濱田浩司が早々に1分5秒436を出し、後半出場選手の好タイムが期待されたが、やや風の影響もあってか、1分5~6秒台のタイムで推移した。結局、勝負は荒井、伏見の両選手の走りに絞り込まれた。最後に走った昨年度の覇者・伏見

俊昭が1分5秒191のタイムで、昨年度2位の荒井崇博の1分5秒286を破り優勝した。3位も昨年度4位の濱田浩司が入り順当な結果となったが、欲を言えば1分4秒台での決着が欲しいところであった。

また、ケイリンは予選5レースが行われ、27選手が1/2決勝に進んだ。有力視された吉岡稔真、稲村成浩、岡部芳幸、金古将人、加藤慎平らが早々に姿を消したのは残念だった。

4km個人追抜競走予選9レースは、第一人者・飯島規之が衰えを見せない相変わらずの強さを発揮して4分50秒468の一番時計で決勝に駒を進めた。4km団体追抜競走予選4レースは、これも下馬評通り昨年優勝の京都地区チーム(予選タイム1位4分37秒073)と南関東地区チーム(予選タイム2位4分39秒306)が予想通りの力走で両チームの決戦となった。決勝レースは南関東地区チームがバランスの取れた走りを披露。4分32秒379のタイムで、4分35秒780の京都地区チームを降し昨年のリベンジを果たした。

- 第2日 -

引き続き快晴に恵まれ熱い陽射しの下、スプリント1/4決勝から競技開始。決勝種目は、ポイントレース、オリンピックスプリント、スプリント、ケイリンの4種目。

ポイントレースは、中心と思われた飯島規之が積極的なレース運びでポイントをリードしたが、最終ゴールで失



オリンピックスプリント優勝の関東チーム

速し4位に終わった。後半に力を蓄え最終ゴール勝負を制した内藤宣彦が初優勝を飾った。内藤選手に続き最終ゴールを82期の若手大塚英伸、ベテラン斎藤勝が通過。ポイントの差で、斎藤勝が第2位、大塚英伸が3位となった。

オリンピックスプリント決勝は、神山雄一郎を擁する関東地区チームが1分16秒339の予選1位のタイムで、予選2位(タイム1分17秒268)の九州地区チームと対戦。総合力に勝った関東地区チームが1分15秒689の大会新で優勝。九州地区チームは1分16秒681だった。

スプリント決勝は、巧みなレース運びで勝ちあがった渡辺晴智と優勝候補金子貴志との対戦となった。1本目、渡辺が果敢に逃げたが、金子が落着いて差し切る。2本目は金子が一気に仕掛けて逃げ切り昨年に続き優勝した。

ケイリン決勝は、池尻 - 丸 - 西川 - 手島 - 伊藤保 - 市田 - 内林 - 前田 - 会田で周回。赤板過ぎ伊藤以下が仕掛けると、更に手島がスパートするが、伊藤が主導権を取りきる。伊藤に続いた市田が捲り、ゴール寸前内林が1/8輪差し切り優勝した。

大会は好天に恵まれ、各種目とも熱のこもった見応えのあるレースが展開された。(選手強化部・今井 弘明)

[競技結果]

1kmタイムトライアル

- 1 伏見 俊昭 福島 北日本地区 1:05.191
- 2 荒井 崇博 佐賀 九州地区 1:05.286
- 3 濱田 浩司 愛媛 四国地区 1:05.436
- 4 村上 義弘 京都 近畿地区 1:05.608
- 5 田中 弘章 福岡 九州地区 1:05.744
- 6 小佐野文秀 山梨 関東地区 1:05.956

スプリント

- 1 金子 貴志 愛知 中部地区
- 2 渡辺 晴智 静岡 南関東地区
- 3 布居 寛幸 和歌山 近畿地区
- 4 小川 圭二 徳島 四国地区

ケイリン

- 1 内林 久徳 滋賀 近畿地区
- 2 市田佳寿浩 福井 近畿地区
- 3 前田 拓也 大阪 近畿地区
- 4 手島 慶介 群馬 関東地区
- 5 西川 親幸 熊本 九州地区
- 6 會田 正一 千葉 南関東地区

4km個人追抜

- 1 飯島 規之 埼玉 関東地区 4:55.240
- 2 鳥生 知八 愛媛 四国地区 5:04.485
- 3 諸橋 愛 新潟 関東地区 5:00.524
- 4 河崎 恵治 京都 近畿地区 5:11.173
- 5 館 泰守 愛知 中部地区 5:04.237
- 6 中村 昌弘 広島 中国地区 5:04.299

ポイントレース

- 1 内藤 宣彦 秋田 北日本地区 20 p
- 2 斎藤 勝 広島 中国地区 15 p
- 3 大塚 英伸 静岡 南関東地区 14 p

- 4 飯島 規之 埼玉 関東地区 12 p
- 5 岩本 和也 石川 中部地区 9 p
- 6 佐々木健司 青森 北日本地区 8 p

オリンピックスプリント

- 1 関東地区 神山・幸田・坂本 1:15.689
- 2 九州地区 荒井・原・斎藤 1:16.681
- 3 北日本地区 松井・坂本・斉藤 1:18.861
- 4 中部地区 海田・中津・田島 1:19.943
- 5 中国地区 友定・石丸・久富 1:18.326
- 6 四国地区 曾我部・河部・大森 1:18.451

4km団体追抜

- 1 南関東地区 遠澤・川越・梶山・畠山 4:32.379
- 2 近畿地区 窓場・久米・岩崎・山岸 4:35.780
- 3 中部地区 濱口・加藤・山口・志智 4:39.634
- 4 中国地区 中村・山内・井山・隅 4:41.830
- 5 関東地区 笹川・中山・松本・川村 4:45.474
- 6 九州地区 紫原・神開・古閑・加倉 4:59.875

団体賞

- 1 関東地区 40 p
- 2 中部地区 37 p
- 3 近畿地区 36 p



2001年UCIトラックワールドカップ 第1戦代表選手団

大会名	2001年UCIトラックワールドカップ 第1戦コロンビア大会
開催期間	2001.5.25-27
開催場所	コロンビア 屋外・板張り・250m・最大斜度46度)
派遣期間	2001.5.21~30
派遣選手団	
監督	班目 秀雄(連盟強化コーチ)
メカニック	藤原富美男(連盟強化スタッフ)
マッサージャー	石田 宗男(連盟強化スタッフ)
総務	名畑 陽二(連盟強化部長)
選手	佐野 梅一(JPCA・京都)・長塚 智広(JPCA・茨城) 伊勢崎彰大(JPCA・千葉)・濱田 浩司(JPCA・愛媛) 荒井 崇博(JPCA・佐賀)

TITANIUM Technology

より高度な剛性バランスを追求して、Tiコブラシェイプ、さらに進化。

比重は鉄の約1/2、強度もアルミ・鉄を圧倒し、弾性にも優れるチタン。この理想の素材特性をフルに活かして開発したのが、Tiコブラシェイプだ。ヘッド側を縦楕円に、BB側を横楕円に形成。さらにティアドロップ断面とトリプルハテッド加工を採用することで、軽さ・衝撃吸収性・高剛性を徹底追求した。そして今シーズンは、ヘッド回りの剛性を高める“ゼロスタック”ヘッドシステムを採用。縦横の剛性をいっそう高次元でバランスさせ、よりニアな操縦性を実現した。



<http://www.panabyc.co.jp>

パナソニック・オーダーシステムカタログをご希望の方は、200円切手を同封の上、下記まで
松下電器産業株式会社 自転車事業部 〒582-8501 大阪府柏原市片山町13-13 TEL.0729-77-1601

Panasonic

TiCOBRASHAPE
TITANIUM SUPER CROSS OVAL
TRIPLE BUTTED DOWN TUBE



OCT 06 7.9 写真の商品はOCT 06 D (DURA-ACE)です。

WEIGHT OCT 06D 530SIZE チューブラー、ノーマルホイール仕様

355,000円〜(税別)

※パーツ・カラー選択により価格は異なります。

フレーム単体販売

FCT 06

基本標準価格(税別) 170,000円〜

WEIGHT 1.9kg(フレーム・フォーク・ヘッドパーツ込み530サイズ)



2001年JOCジュニアオリンピックカップ自転車競技大会

500m タイムトライアルでジュニア日本新記録樹立



男子スプリント決勝の永井(左)と屋良

そのペースが落ちない。厳しく難しい種目であるが、今後お互い切磋琢磨して一層の活躍に期待したい。

女子2km個人追抜

ポイントレースを制した松永が、この種目でも優勝し2冠を獲得した。但し記録は決勝戦の2分48秒094がベストとやや低調ではあった(予選は強風のためあまり参考にならないが)。この種目はいかにペースを落さずに周回するかが好タイムに繋がるが、下位の選手にはこのプランが実行できていない選手が多い。まず2kmをイーブンペースで走り切る基

本大会はJOC(財)日本オリンピック委員会の冠が示すように、将来国際舞台での活躍が期待される若い選手を発掘するために、JOCの後援を受け開催される大会だ。今年の舞台は茨城県の取手競輪場で、国体における都道府県対抗がそうであるようにこの大会は、来年のインターハイ開催に向けての予行大会となる。大会運営に対する茨城県車連の熱意は高く、2センターの大型オーロラビジョンにレースの様子が映し出され、フィニッシュ後には2方向のアンクルからのゴールのスロー映像が流された。

さらに場内各所に設置されたモニターにも同じ映像が映され、レースの状況把握に非常に役だった。多くの関係者が集まる来年のインターハイには、これらのモニターが大いに活躍することであろう。

女子10kmポイントレース

松永舞美(香川・高松工芸高)が、5回のポイント周回のうち4回で1着を獲得し圧勝した。しかしあえて言わせてもらうならば、全てのポイント周回で1着を獲得する「完全制覇」を成し遂げて欲しかった。4回目のポイントではおそらくゴールで1着を獲得するために足を貯めていたのであるが(実際逃げて1着を獲得)まったく着に絡む気配が見られなかった。既に世界の舞台を経験している選手だけに、ジュニアで出場

する国内のレースにおいては圧倒的な強さを見せてもらいたい。そして他の選手もそれを阻止すべく奮起することで、女子全体のレベルアップが期待できるはずだ。

女子500mタイムトライアル

38秒182の国内女子ジュニア新記録で遠藤友子(大分・別府商高)が優勝した。さらに2位の大森恵(北海道・函館大谷高)が38秒787、3位の篠崎新純(千葉・千葉経済高)が38秒805と、表彰台の3人が38秒台の好記録であった。女子のTTは距離が500mになったことにより、無酸素運動限界付近での競技になっている。実際世界レベルの選手では、スタート後トップスピードまで上げると最後までまったく

礎体力をつけて欲しい。

女子スプリント

予選出走3名と寂しいレースとなってしまった。強風吹きつける中行なわれた予選で12秒台を出した遠藤が予選1位、13秒578の篠崎が2位で、この2人



女子ポイントレース決勝

による決勝は2本とも遠藤が逃げ切り全アマ2位の貫禄を示した。遠藤は500mTTに続き2冠獲得。

男子1kmタイムトライアル

昨年この種目2位の井上雄三(埼玉・イノウエスポーツサイクル)が1分8秒916で優勝した。2位は臼井正臣(岐阜・岐南工高)でタイムは1分9秒108。3位は全アマでも4位入賞の西村行貴(熊本・開新高)でタイムは1分9秒159。

男子3km個人追抜

準決勝で唯一3分40秒を切った臼井昌臣が、決勝でも明珍周平(福島・白川実高)を終始リードし優勝した。臼井の準決勝での1kmごとのタイムが、それぞれ1分14秒、1分11秒、1分11秒でペースが落ちないのがこの選手の強みであろう。今後は内田 慶の持つジュニア記録に挑戦して欲しい。

なお今回個人追抜では、予選上位8人が準決勝に進出する新ルールが採用された。この方式の場合予選では準決勝の対戦を有利にするために、また準決勝では相手に先着するだけでなく決勝に進出するためにタイムも出さねばならない。すなわち予選からフルアタックを要求されるわけで、今後各選手はこの方式に対応したレースプランを組みトレーニングすることが必要となる。

男子スプリント

予選を1位で通過した永井清史(岐阜・岐阜一校)が、準決勝で全アマ優勝の石橋慎太郎(静岡)を2-1で下し、決勝では予選11位から勝ちあがってきた屋良朝春(沖縄・北中城高)をストレートで下し優勝した。決勝で敗れたとはいえ屋良選手は、1/8決勝での相手を封じ込めた勝利や1/4決勝での逃げ切り勝ち(11秒3)など今後に期待したい選手である。

男子24kmポイントレース

序盤は混戦模様。しかし3回目のポイントを獲得した片山智暁(岡山・岡山工

高)池田丈志(奈良・北大和高)、高島豪(埼玉・小松原高)望月 純(静岡・静岡北高)の4人がエスケープに成功し、1ラップアップを果たす。45周目に驚田佳史(福井・北陸高)がアタックをしかけると池田、高島もこれに反応し事実上この二人の勝負となる。結局優勝は5回の1着を記録した全アマ4位入賞の高島であった。

なおJOCカップは女子が遠藤、男子は高島が獲得した。

遠藤「JOCカップは目標にしていたので受賞できてうれしい。500mでは37秒台で新記録を出したかった。今後は高校の大会だけではなく、大学、実業団も含め1番になりたいです。」

高島「(ポイント決勝は)個人追抜3~4位決定戦の直後だったので不安でしたが、上手く逃げに乗り、自分の展開にすることができました。今後もポイントレースで好成績を挙げたいです。ジュニア・アジア選手権選手権も頑張ります。」

(村田 隆宣)

[競技結果]

男子1kmタイムトライアル

- 1 井上 雄三 埼玉 イノウエ 1:08.916
- 2 臼井 昌巨 岐阜 岐南工業高 1:09.108
- 3 西村 行貴 熊本 開新高校 1:09.159
- 4 中田 博之 富山 氷見高校 1:10.076
- 5 甲斐 康昭 群馬 前橋工業高 1:10.333
- 6 須藤 雄太 千葉 京葉工業高 1:10.565

男子スプリント

- 1 永井 清史 岐阜 岐阜第一高校
- 2 屋良 朝春 沖縄 北中城高校
- 3 石橋慎太郎 静岡
- 4 青木 亮太 群馬 前橋工業高校
- 5 斉藤 友幸 静岡 修善寺工業高校
- 6 須藤 雄太 千葉 京葉工業高校

男子3km個人追抜

- 1 臼井 昌巨 岐阜 岐南工業高 3:39.333
- 2 明珍 周兵 福島 白河実業高 3:46.069
- 3 高島 豪 埼玉 小松原高校 3:44.786
- 4 小岩 大介 大分 日出暘谷高 3:45.776

- 5 糸賀 賢司 福島 平工業高校 3:46.193
- 6 柏原 剛 京都 北陵高校 3:50.056

男子ポイントレース(24km)

- 1 高島 豪 埼玉 小松原高校 37 p
- 2 池田 丈志 奈良 北大和高校 21 p
- 3 片山 智暁 岡山 岡山工業高校 18 p
- 4 驚田 佳史 福井 北陸高校 (-1)22 p
- 5 柴田 祐也 岐阜 岐南工業高(-1)15 p
- 6 林 信祐 青森 八戸工大一高(-1)8 p

女子500mタイムトライアル

- 1 遠藤 友子 大分 別府商業高校 38.182
- 2 大森 恵 北海道 函館大谷高校 38.787
- 3 篠崎 新純 千葉 千葉経済高校 38.805
- 4 横尾 裕子 山形 山形電波工高 41.251
- 5 高島美咲紀 鳥取 倉吉西高校 41.832
- 6 前川 康子 奈良 北大和高校 42.014

女子スプリント

- 1 遠藤 友子 大分 別府商業高校
- 2 篠崎 新純 千葉 千葉経済高校
- 3 大森 恵 北海道 函館大谷高校

女子2km個人追抜競走

- 1 松永 舞美 香川 高松工芸高 2:48.094
- 2 谷村祐美子 奈良 北大和高校 2:55.884
- 3 横尾 裕子 山形 山形電波工 2:52.318
- 4 玉城 さち 沖縄 那覇西高校 2:54.657
- 5 小野 翔子 栃木 作新学院高 2:53.463
- 6 植野 海空 鹿児島 鹿児島実高 2:56.362

女子ポイントレース(10km)

- 1 松永 舞美 香川 高松工芸高校 25 p
- 2 谷村祐美子 奈良 北大和高校 12 p
- 3 前川 康子 奈良 北大和高校 8 p
- 4 小野 翔子 栃木 作新学院高等部 5 p
- 5 安里あゆみ 沖縄 北中城高校 1 p
- 6 植野 海空 鹿児島 鹿児島実高校



JOCカップ受賞の高島(男子)と遠藤(女子)

KEIRIN
競輪補助事業



日本新記録

<スタンディング・スタート>

500m 女子ジュニア 38秒182 遠藤 友子 大分 2001.5.20 茨城・取手競輪場

TOUR DE KOREA-MBC Cheong-Ju ジュニアロード



%強で下りきるといいうハードなコースであった。スタート前からの猛暑が選手を苦しめ、ゴールは20数名の集団で、土井4位、安里16位、小岩17位でステージ総合3位であった。個人総合では、小岩9位、土井13位、チーム総合1位をキープしたものの2位カザフスタンとの差は58秒差となつた。

第1回目の記念すべき大会に、日本、韓国、台湾、カザフスタン、モンゴルのジュニア23チームが参加して、2001年4月15日～23日までの9ステージ1007.4kmで行われ、ほぼ韓国を1周するという大変に苛酷なレースであった。大会期間中は天候にも恵まれ雨ひとつ降らず湿度も低く、極端に寒暖の差が大きかった。選手も体調の調整に大変苦慮していた。

第1日目(4/14)プロローグ

(清州) 2.00km

オチャン特設コースで、ほぼ平坦でラスト300mがやや登りであった。しかし当日は強い向かい風で今にも止まりそうな状況であった。この悪条件ながら別府がプロローグ優勝、小岩5位と健闘した。チームも総合1位で全9ステージレースへのスタートを切った。

第2日目(4/15)第1ステージ

(清州-大田) 134.30km

清州MBC前を晴天の中、高低差300mの山岳コースで、途中で山岳ポイントが1ヶ所という平凡なコースであった。ゴールは150名もの集団ゴールで、土井24位、別府27位、小岩29位でステージ総合6位であった。結果、個人総合に別府が輝いた。小岩4位、チーム総合1位をキープした。また山岳賞において別府が3ポイント(2位)を獲得した。

第3日目(4/16)第2ステージ

(大田-イルシム) 111.50km

チュンム体育館前を澄み渡った青空の中、標高300mクラスの山岳を2つ越

え、内1ヶ所に山岳ポイントがある。この日、前日のレース後に食あたりによって別府が欠場、エースを欠いた状態で3日目のスタートを切った。前半1つ目の山岳で展開が大きく変わった。1名を欠きながらも、50名のトップ集団のなかでゴールした。櫻井20位、土井34位、小岩50位でステージ総合10位であった。個人総合においては、小岩が3位にまで上昇、18位に土井、チーム総合2位と1ランク下げてしまった。また、この日の山岳賞において土井が3ポイント(2位)を獲得した。

第4日目(4/17)第3ステージ

(光州-ハドン) 122.00km

全南道庁前を晴天の中、標高200mクラスの山岳が連続的に続き、インターバルトレーニングコースのようであった。途中1ヶ所山岳ポイントがある。前半は集団のまま推移していたが、レース終盤10数名の選手が集団よりスプリントを駆けそのままゴールした。この日、櫻井11位、安里13位、小岩21位でステージ総合1位に返り咲いた。個人総合では、小岩7位、土井17位と多少の変動があったが現状を維持した。この日の山岳ポイントにおいて土井が5点(1位)を獲得し、山岳賞総合2位となった。

第5日目(4/18)第4ステージ

(馬山-慶州) 135.00km

早朝より気温が高く、底が抜けるような青空の中、馬山公設運動場前をスタート、この日のコースは標高700mクラスの山岳を10%強の勾配で登り、10

第6日目(4/19)第5ステージ

(慶州クリテリウム) 1.80km×20周

晴天の中、韓国通信「修練館」前においてクリテリウムが行われ、1周回4分40秒台のハイスピードで周回を重ねて行った。この日、松下が前日の猛暑の中でのレースにより、軽い熱中症にかかり欠場、土井も不調ながらも集団をキープしてゴールした。別府8位、安里26位でチーム総合としては7位であった。選手全体が体調を壊しながらも最後まで気力で完走した。個人総合は、小岩8位、土井14位でチーム総合1位でカザフスタンとの差は58秒差のままであった。

第7日目(4/20)第6ステージ

(浦項-安東) 128.80km

早朝より曇り空で、いつ雨が降ってもおかしくない天気で非常に肌寒い中、浦項MBC前をスタートした。この日は、途中で山岳ポイントが2ヶ所含まれる標高250mクラスの山岳が3つ連続的に続く。前半集団のまま推移し1ヶ所目の山岳ポイントを過ぎたところより集団はばらつきはじめ2ヶ所目の山岳ポイントを過ぎたところで展開に変化が見られた。絶妙な別府のフォローにより、櫻井を含む3名の選手が集団を引き離しそのままゴールスプリントに持ち込んで、櫻井が1位でフィニッシュした。ステージ初の1位である。別府が19位でステージ総合1位であった。個人総合では、小岩8位、土井13位でチーム総合1位でカザフス

タンとの差は1分16秒差までになった。また、2回目の山岳ポイントにおいて土井が5点(1位)、別府が3点(2位)を獲得し、山岳賞総合で土井が13点で2位、別府が6点で3位になった。

第8日目(4/21)第7ステージ
(安東-原州)141.60km

澄み切った青空の中、安東駅前をスタート、今回のステージ中一番の長丁場である。標高800mを15%強の勾配で登り、それを一気に下り切る全ステージ勝敗を左右するステージになった。思った通りのレース展開になった。この下りで安里が落車して走行不能になった。30名の集団ゴールで別府が5位、土井が30位でステージ総合7位であった。個人総合では、土井が10位でチーム総合3位に転落した。また、この日で最後の山岳ポイントで別府が5点獲得し、最終結果、土井が13ポイントで2位、別府が11ポイントで3位と確定した。

第9日目(4/22)第8ステージ
(原州-河南)101.70km

快晴の中、原州市民運動場前をスタート、全コースフラットで、前半は展開もなく集団のまま推移し、レース中盤より10数名が飛び出しそのままゴールかと思われたが、ゴール10km手前で後続の集団にゲットされ、そのまま集団ゴールになった。別府10位、小岩27位でステージ総合9位となった。個人総合では、土井11位、小岩15位でチーム総合3位のままであった。

第10日目(4/23)第9ステージ
(忠州-清州)94.60km

曇り空の中、忠州駅前をスタート、ほとんどフラットで、前半は集団のまま展開なく推移し、ラスト20km地点で20数名が飛び出し30秒程リードしたが、ゴール5km手前で集団にゲットされ集団ゴールとなった。別府4位、小岩17位でステージ9位となった。個人総合では、土井11位、小岩15位、櫻井19位でチーム総合3位であった。全ステージ完走したのは、土井、小岩、櫻井の3選手だけであったが、他の3名もよく頑張った。

総括

今回、ジュニアとして韓国のステージに参加させていただきました。9ステージで1007.4kmを走破するという日本のジュニアとしては苛酷なレースであったにもかかわらず、6名の選手が自分のもてる力の全てを出し切って、

全ステージに望んでくれた。結果、チーム総合3位という好成绩で帰国することができた。サポート面で選手に負担を掛けた面も多々あったが、現地ドライバーとして日本チームのサポートに特別にお願いした、安東大学自転車競技部監督 韓成日氏に依存するところが大きかった。日本がチーム総合3位という成績の裏には、韓氏の細心サポートがあった。ここでもう一度、韓氏に感謝の言葉を贈りたい。

最後に、今回ジュニアステージレースに参加するチャンスを与えてくれた日本自転車競技連盟に感謝申し上げます。

(高体連 佐藤 敏行)

[競技結果]

ﾌﾞｯｸﾞ (2km)

1	別府 史之	JPN	3:16.33
2	VIKTOR Shestakov	KAZ	3:19.04
3	YOO Sung Keun	KOR	3:19.15
5	小岩 大介	JPN	3:19.98
15	松下 善紀	JPN	3:28.16
24	櫻井 透	JPN	3:32.13
35	土井 雪広	JPN	3:37.71
43	安里 勝徳	JPN	3:40.78

第1ｽﾀｰｼﾞ (134.40km)

1	PARK Sun Ho	KOR	3:39:55
2	CHOI Min Ho	KOR	3:39:50
3	LEE Hyun Ku	KOR	3:39:50
24	土井 雪広	JPN	3:39:50
27	別府 史之	JPN	3:39:50
29	小岩 大介	JPN	3:39:50
32	松下 善紀	JPN	3:39:50
35	安里 勝徳	JPN	3:39:50
46	櫻井 透	JPN	3:40:34

第2ｽﾀｰｼﾞ (111.50km)

1	KWAK Hoon Sin	KOR	3:11:02
2	VALENTIN Iglinskiy	KAZ	3:11:02
3	CHANG Sun Jae	KOR	3:11:02
20	櫻井 透	JPN	3:11:02
34	土井 雪広	JPN	3:11:02
50	小岩 大介	JPN	3:11:02
65	松下 善紀	JPN	3:12:15
74	安里 勝徳	JPN	3:16:19

第3ｽﾀｰｼﾞ (122.00km)

1	KIM Sung Ho	KOR	3:12:24
2	LEE Hyun Ku	KOR	3:12:24
3	NOH Do Yub	KOR	3:12:24
11	櫻井 透	JPN	3:12:24
13	安里 勝徳	JPN	3:12:24
20	小岩 大介	JPN	3:12:44
21	土井 雪広	JPN	3:12:44
28	松下 善紀	JPN	3:13:03

第4ｽﾀｰｼﾞ (135.00km)

1	CHOI Jong Kyun	KOR	3:27:01
2	CHANG Sun Jae	KOR	3:27:01
3	PARK Sung Baek	KOR	3:27:01
4	土井 雪広	JPN	3:27:01
16	安里 勝徳	JPN	3:27:01

17	小岩 大介	JPN	3:27:01
25	櫻井 透	JPN	3:31:50
34	松下 善紀	JPN	3:31:50

第5ｽﾀｰｼﾞ (36.00km)

1	CHUNG Hyng Ho	KOR	57:55
2	PARK Sun Ho	KOR	57:55
3	OH Seung Yoon	KOR	57:55
8	別府 史之	JPN	57:55
26	安里 勝徳	JPN	57:55
42	小岩 大介	JPN	57:55
66	櫻井 透	JPN	57:55
86	土井 雪広	JPN	58:17

第6ｽﾀｰｼﾞ (128.80km)

1	櫻井 透	JPN	3:10:07
2	LEE Joon Ho	KOR	3:10:07
3	KIM Young Jun	KOR	3:10:27
19	別府 史之	JPN	3:10:20
29	小岩 大介	JPN	3:10:20
37	安里 勝徳	JPN	3:10:20
42	土井 雪広	JPN	3:10:20

第7ｽﾀｰｼﾞ (141.50km)

1	LEE Myung Hyun	KOR	3:41:43
2	CHOO Yoon Ho	KOR	3:41:43
3	VALENTIN Iglinskiy	KAZ	3:41:43
5	別府 史之	JPN	3:41:43
30	土井 雪広	JPN	3:41:43
33	櫻井 透	JPN	3:43:31
43	小岩 大介	JPN	3:44:52

第8ｽﾀｰｼﾞ (101.70km)

1	PARK Sun Ho	KOR	2:30:16
2	LEE Myung Hyun	KOR	2:30:16
3	LEE Hyun Ku	KOR	2:30:16
10	別府 史之	JPN	2:30:16
27	小岩 大介	JPN	2:30:16
40	櫻井 透	JPN	2:30:16
57	土井 雪広	JPN	2:30:16
71	安里 勝徳	JPN	2:30:16

第9ｽﾀｰｼﾞ (94.60km)

1	KIM Sung Ho	KOR	2:15:47
2	LEE Hyun Ku	KOR	2:15:47
3	KIM Young Jun	KOR	2:15:47
4	別府 史之	JPN	2:15:47
17	小岩 大介	JPN	2:15:47
56	安里 勝徳	JPN	2:15:47
83	櫻井 透	JPN	2:15:47
84	土井 雪広	JPN	2:15:47

個人総合

1	VALENTIN Iglinskiy	KAZ	26:09:32.34
2	PARK Sung Baek	KOR	26:09:42.21
3	KWAK Hoon Sin	KOR	26:09:43.10
11	土井 雪広	JPN	26:10:42.71
15	小岩 大介	JPN	26:13:06.98
19	櫻井 透	JPN	26:16:48.13
40	安里 勝徳	JPN	27:10:00.78
64	別府 史之	JPN	28:14:40.33
96	松下 善紀	JPN	29:39:23.16

団体総合

1	ｶﾞ'ｽﾀ'	KAZ	78:30:07.50
2	SEOUL H.S	KOR	78:30:22.48
3	日本	JPN	78:30:43.47

連載企画 第20回

アンチ・ド - ピングについて ドーピング検査の現場から

新津谷 真人 ニイツマ マサト

昭和60年 北里大学医学部卒業
循環器内科研修生を経て平成7年より現職の北里
大学医学部、衛生学・公衆衛生学講師
またその頃より自転車競技に関わり始め
現在(財)日本自転車競技連盟・アンチドーピング委員

坂本 陽一 サカモト ヨウイチ

国際自転車競技連合・インターナショナルコミッセル

今年度も自転車競技シ - ズンが始まり、すでに多くの大会が実施されています。これに合わせて、5月12・13日に行われた第70回全日本アマチュア自転車競技選手権大会トラックレ - ス、及び5月19・20日に行われたJOCジュニアオリンピックカップ自転車競技大会においても、ド - ピング検査が実施されました。しかし、ド - ピング検査の対象になった選手が今までにほとんど検査の経験がないことに加え、競技が次々と行われていくトラック競技のために、ド - ピング検査に監督やコ - チの方が同伴できなかったり、ド - ピング検査が終了するまで検査室に留まっていることができないなど、少なからず現場で混乱が生じていた様に思います。

そこで今回は、関係者が十分に理解できていないと思われる競技規則について改めて解説したいと思います。

1 「使用した医薬品の表」を競技出場前に提出する必要があります。

競技に出場する場合には、競技前72時間(3日)以内に使用した医薬品を申告する必要があります。提出がない場合には、出走を拒否される場合があります。ド - ピング検査の際にも同じ内容のことを聞かれますが、自分が使用した医薬品の名前を覚えていない選手がいます。普段から医薬品の名前を覚える習慣をつけ、覚えられない場合にはメモしておく様にして下さい。

また、4日前、5日前に医療機関で治療を受けたことを気にする選手がいます。競技規則では72時間以上前の治療内容を申告する義務はありません。しかし、参加する大会が直前にせまっていて治療を受ける場合には、自分がド - ピング検査を受ける可能性があることを医師に伝える必要があります。この際、「禁止薬物」は、たとえ治療の目的であっても使用することはできませ

ん。大会が近い場合には使用を避けた方が良いでしょう。

また、一部の薬物に関しては、医師の診断書の提出により使用が許可される場合があります。その場合には、(1) **診断名**、(2) **使用薬物名**、(3) **使用薬物量**、(4) **使用方法(投与方法)**を明記してもらって下さい(詳しくはシクリスムエコ - No.75、アンチド - ピングについて・薬の知識11) - 医師の診断書や処方箋を提出する必要のある薬物 - を参照して下さい)。

2 検査室へは「競技終了後30分以内」に行く必要があります。

ド - ピング検査の対象選手になった場合には、競技終了後30分以内に検査室に行く必要があります。遅刻した場合には、陽性と判断されます。この際、同伴者(監督・コ - チ等)がいないことを、遅刻の理由にすることはできません。

3 表彰式がある場合には表彰式を優先し、「表彰式終了後30分以内」に検査室に行ってください。

ド - ピング検査は競技終了直後に受ける必要があります。しかし、表彰式が競技終了直後に行われる場合には、表彰式を優先して下さい。一度検査室(控室)に入ってしまうと、競技規則上はド - ピング検査が終了するまでは部屋を出ることができません。途中退室した場合には、陽性と判断されます。表彰式までの間に確実に終了できる自信がある場合にはド - ピング検査を受けても構わないかと思えます。しかし、ド - ピング検査の経験のない選手は尿がなかなか出ないことの方が多いため、表彰式終了後に検査を受けた方が良いでしょう。

なお、インタビュー - は表彰式には含まれませんので注意して下さい。

4 同伴者は必ずしも監督やコ - チである必要はなく、他の選手でも構いません。

同伴者の役割は、選手側の立場でド - ピング検査に不正が無いことを確認することです。このため、同伴者は監督やコ - チの方が良いのは事実ですが、他の選手が監督やコ - チの代わりに同伴することも可能です。

5 他の競技にも出場するため、すぐにド - ピング検査を受けることができない場合には、そのことを検査室に来て報告する必要があります。

ド - ピング検査の対象選手に選ばれたにもかかわらず、同日中に他の競技にも出場を予定している場合には、「次の競技に出場するため、検査を受けることができない」ことを検査室に来て報告する必要があります。この場合のド - ピング検査は、対象選手が出場する最後の競技終了後、あるいは表彰式に参加する場合には表彰式終了後30分以内に実施されます。

[まとめ]

- 1 「使用した医薬品の表」を競技出場前に提出する必要があります。提出がない場合には、出走を拒否される場合があります。
- 2 検査室には「競技終了後30分以内」に来て下さい。遅刻した場合には陽性と判断されます。
- 3 しかし、表彰式がある場合には表彰式を優先し、「表彰式終了後30分以内」に検査室に来て下さい。
- 4 同伴者は必ずしも監督やコ - チである必要はなく、他の選手でも構いません。
- 5 他の競技にも出場するため、すぐにド - ピング検査を受けることができない場合には、そのことを検査室に来て報告する必要があります。

2001 パンパシフィック BMX 選手権上越大会

5月3日、4日新潟県上越市・金谷山公園BMX(バイシクルモトクロス)トラックにてUCI公認2001環太平洋BMX選手権大会上越が開催された。1997年に東京都稲城市で行われ今回日本では2度目の開催となった。国内の有力選手のほか、アメリカ、オーストラリア、イギリスなど世界トップクラスの選手8ヶ国34名を含む約400名が参加。国際色豊かな見応えのあるレースに会場は盛り上がった。大会は初日がラウンド1、2日目、2目がラウンド2で、2回競技が行われた。最上級のクラスのエリート・ラウンド1では、マット・ポールキャンプ(アメリカ)が優勝。翌日のラウンド2では初日2位のグラント・ホワイト(オーストラリア)が優勝した。日本勢は残念ながら2日間とも決勝に進出できなかったが、世界トップレベルの技とスピードに果敢に挑戦し健闘した。

[競技結果]

Round 1

7 アンダー

- 1 吉村 啓斗 大阪
- 2 野島 遊 大阪
- 3 黒野 義満 大阪 KBU
- 4 荒井 心平 神奈川 チームチャパツ
- 5 小林 巧実 大阪
- 6 小島 淳 大阪 チームサイト
- 7 高木 智那 長野 JBA BikeLoop

8-9

- 1 三瓶 貴公 神奈川 いそやレーシング
- 2 草間 亮介 新潟 JBA
- 3 高木 理太 長野 チームチータ
- 4 吉村樹希敢 大阪
- 5 池田 大暉 新潟 JBA
- 6 小林 颯太 大阪
- 7 市山 ショウ 神奈川
- 8 羽尾 耀士 新潟

10-11

- 1 三瓶 将廣 神奈川 GT Japan
- 2 古性 優作 大阪 クレージ-ホース
- 3 山本 巨樹 大阪
- 4 菊池 雄 神奈川 IRC,TroyLeeDesgin
- 5 高山裕次郎 埼玉 AST
- 6 松下 巽 神奈川 M.W.トリイ-デザイナズ
- 7 三輪龍之介 広島 チームFLY
- 8 羽尾 良介 新潟

12-13

- 1 藤原 海渡 神奈川 SCHWINN
- 2 山本 力也 大阪
- 3 藤沢 雄一 岡山 岡山
- 4 信清 達也 岡山
- 5 信清 良太 岡山
- 6 井上 享俊 大阪 クレージ-ホース



- 7 生方 朗 東京 AST.アカバ'社'シ'ョン
- 8 中沢俊太郎 山梨 シーガル

14-16

- 1 アンドレ・エリツ USA Haro
- 2 黒田 淳 岡山 MX/HARO
- 3 古志 嘉崇 神奈川 MX/Mongoose
- 4 猪又 基充 神奈川 スパ'シャライズ'ト'
- 5 市山 研 神奈川
- 6 赤城 文隆 岡山 AIRWALK
- 7 福田 遼 新潟

17-29

- 1 菊池哲太郎 神奈川 GT Japan
- 2 五十嵐 洋 新潟 チームバ'イクル'ブ
- 3 山崎 洋平 大阪
- 4 池田 英貴 広島
- 5 澤村 義裕 岐阜 チーム'リリース'
- 6 吉原 康高 新潟
- 7 坂井 智彦 富山 ウォン'バ'ット
- 8 愛垣 貴彦 大阪

オーバ'-30

- 1 藤原 信彦 神奈川 イヤレ-リング'
- 2 小島 勉 大阪 チームサイト
- 3 飯端 宏 大阪
- 4 佐々木哲也 富山 ウォン'バ'ット
- 5 佐藤 謙一 新潟
- 6 安野 秀樹 新潟 メイト'イン'パ'ン
- 7 北野 貴之 石川
- 8 マリ-ロ'ズ 宮崎 BMX JAPAN.COM

ガ-ルズ' 8-11

- 1 菊池 真衣 新潟 JBA
- 2 岸本 絵理 大阪
- 3 石川 瑞穂 大阪
- 4 三枝 友香 東京 AST

ガ-ルズ'・オーバ'-12

- 1 藤原亜香里 神奈川 MX Haro
- 2 飯端 美樹 大阪
- 3 井上美美子 大阪 クレージ-ホース
- 4 三輪 郁佳 広島 チームFLY

エリート

- 1 マット・ポールキャンプ USA Schwinn/UGP
- 2 グラント・ホワイト AUS Free Agent
- 3 マット・ヘイダ'ン USA Redline

- 4 ル-ク・マ'テ'イル AUS Norco
- 5 エリック・ア'バ'テ'サ USA Standard
- 6 ステファン・レイルズ USA Mongoose
- 7 マイケル・ロ'ビ'ソ'ン AUS GT
- 8 トビ'ス・ツ'ケ'ル'ソ'ン AUS Schwinn/UGP

Round 2

7 アンダー

- 1 吉村 啓斗 大阪
- 2 高橋 晃太 岡山
- 3 野島 遊 大阪
- 4 黒野 義満 大阪 KBU
- 5 荒井 心平 神奈川 チームチャパツ
- 6 小島 淳 大阪 チームサイト
- 7 高木 智那 長野 JBA BikeLoop
- 8 勅使河原大地 愛知 MATSUI-CYCLE

8-9

- 1 三瓶 貴公 神奈川 いそやレーシング
- 2 吉村樹希敢 大阪
- 3 草間 亮介 新潟 JBA
- 4 高木 理太 長野 チームチータ
- 5 山本 流聖 大阪
- 6 九島 勇気 神奈川 チームチャパツ
- 7 岡田 彪利 東京 AST
- 8 羽尾 耀士 新潟

10-11

- 1 古性 優作 大阪 クレージ-ホース
- 2 三瓶 将廣 神奈川 GT Japan
- 3 山本 巨樹 大阪
- 4 菊池 雄 神奈川 IRC,TroyLee Desgin
- 5 宮川 拓也 大阪
- 6 高山裕次郎 埼玉 AST
- 7 平井 栄一 神奈川
- 8 権田 悠人 神奈川 チームア-ス&SPY

12-13

- 1 藤沢 雄一 岡山 岡山
- 2 井上 享俊 大阪 クレージ-ホース
- 3 信清 良太 岡山
- 4 飯端 英洋 大阪
- 5 山本 力也 大阪
- 6 南本 雄太 大阪
- 7 高山 一成 埼玉 AST
- 8 信清 達也 岡山

- 14-16
- 1 アンドレ・イリツ USA Haro
 - 2 黒田 淳 岡山 MX/HARO
 - 3 古志 嘉崇 神奈川 MX/Mongoose
 - 4 猪又 基充 神奈川 ス^レシャライズ^ド
 - 5 市山 研 神奈川
 - 6 赤城 文隆 岡山 AIRWALK
 - 7 福田 遼 新潟

- 17-29
- 1 菊池哲太郎 神奈川 GT Japan
 - 2 五十嵐 洋 新潟 チム^ルイクル^ブ
 - 3 山崎 洋平 大阪
 - 4 澤村 義裕 岐阜 チム^ルリーズ
 - 5 吉原 康高 新潟
 - 6 古館 謙一 岐阜 Velo
 - 7 後藤 晃正 岐阜
 - 8 愛垣 貴彦 大阪

- オ^パ-30
- 1 滝川 年徳 愛知 G-MAGIC
 - 2 古性 秀一 大阪 クレ^ジ-ホ^ス
 - 3 藤原 信彦 神奈川 イケレ^リング
 - 4 佐藤 謙一 新潟
 - 5 三輪 隆志 広島 チム^ルFLY
 - 6 佐藤 聖司 愛知 G-MAGIC
 - 7 荒川 真成 新潟 JBA
 - 8 小島 勉 大阪 チム^ルサイト

- ガ^ルズ 8-11
- 1 菊池 真衣 新潟 JBA
 - 2 岸本 絵理 大阪
 - 3 石川 瑞穂 大阪
 - 4 三枝 友香 東京 AST

- ガ^ルズ・オ^パ-12
- 1 藤原亜香里 神奈川 MX Haro
 - 2 飯端 美樹 大阪
 - 3 井上美美子 大阪 クレ^ジ-ホ^ス
 - 4 三輪 郁佳 広島 チム^ルFLY
 - 5 権田 理紗 神奈川 チム^ルエア^ズ

- イ^リ-ト
- 1 グラント・初作 AUS Free Agent
 - 2 マット・ホ^ル・ルキヤ^ン USA Schwinn/UGP
 - 3 イリツク・ア^レ・デ^ラ USA Standard
 - 4 マット・ヘ^イ・タン USA Redline
 - 5 プ^ライヤ^ン・ス^ミ USA Mongoose
 - 6 ク^リント・ガ^ワー USA Redman
 - 7 ル^カ・マ^テ・イル AUS Norco
 - 8 マ^イケ^ル・ロ^ウ・ソ^ウ AUS GT

- ビ^ギナー9歳以下
- 1 井坂 俊貴 茨城
 - 2 黒野 仁喜 大阪
 - 3 佐藤 匠 愛知 G-MAGIC
 - 4 安藤 彰真 神奈川 イ^ア-ズ

- ビ^ギナー17歳以上
- 1 西尾たけひろ 大阪
 - 2 古幡 雄介 埼玉
 - 3 吉田健太郎 東京 チム^ルAST
 - 4 加藤 誠 岐阜
 - 5 富田 勝浩 東京
 - 6 鈴木 健二 愛知
 - 7 笹岡千賀子 新潟
 - 8 百野 寛史 愛知 ホ^ル-リ^ン



競技大会 結果

チーム名等については略して記載

第3回全日本学生選手権ケリウム大会 (4/29 滋賀・立命館大学びわこキャンパス)

- 男子(42.0km)
- 1 辻 貴光 立命館大学 31 p
 - 2 大塚 潤 東海大学 29 p
 - 3 圓谷 崇 日本大学 16 p
 - 4 向川 尚樹 立命館大学 15 p
 - 5 宮川 拓也 京都産業大学 10 p
 - 6 上田 誠 立命館大学 5 p
 - 7 吉井 淳 関西大学 5 p
 - 8 矢澤 真幸 京都大学 3 p
 - 9 岩本竜太郎 京都産業大学 1 p
 - 10 三浦 勇一 中京大学 1 p

- 女子(14.7km)
- 1 大塚 恵美 明治大学 24:09.00
 - 2 稲岡 智子 摂南大学 24:54.23
 - 3 野坂 尚由 中京大学 25:22.00
 - 4 川戸はづき 26:29.80

第41回東日本学生選手権 (5/6 東京・立川競輪場)

- 男子1kmタイムトライアル
- 1 大村 慶二 東京工業大学 1:11.541
 - 2 前田 吉昭 日本大学 1:13.898
 - 3 山口 裕之 法政大学 1:13.905
 - 4 小林 涉 明治大学 1:14.008
 - 5 竹沢 浩司 日本大学 1:14.156
 - 6 松永 将 中央大学 1:14.622

- 男子ス^リット
- 1 篠原 忍 中央大学
 - 2 櫻山新太郎 日本大学
 - 3 植木 和広 中央大学
 - 4 若園 賢二 東北学院大学
 - 5 三上 広 法政大学
 - 6 森田 光高 東海大学

- 男子4km個人追抜
- 1 黒木 裕介 法政大学 5:06.826
 - 2 吉野 鉄平 日本大学 5:21.405
 - 3 伊藤 太一 日本大学 5:18.563
 - 4 金井 慎次 静岡大学 5:20.654
 - 5 高橋 辰徳 東北学院大学 5:13.367
 - 6 平林 大宜 早稲田大学 5:14.435

- 男子ケ^リン
- 1 前川 亮二 日本大学
 - 2 北野 大地 東北学院大学
 - 3 中島 卓也 東北学院大学
 - 4 小野木一仁 法政大学
 - 5 井戸川智則 日本大学
 - 6 檜崎 雅也 日本大学

- 男子ホ^ル・イ^ント^ル-ス(24km)
- 1 鈴木 涼平 中央大学 26 p

- 2 石田 拓司 法政大学 19 p
- 3 普久原 奨 日本大学 18 p
- 4 堀川 大地 法政大学 16 p
- 5 鈴木 謙一 法政大学 3 p
- 6 飯島 一信 中央大学 1 p

- 男子4km団体追抜
- 1 日本大学 西谷・吉野・圓谷・竹沢・前田 4:56.233
 - 2 明治大学 小林・阿部・齊藤・盛 5:09.033
 - 3 中央大学 松下・水尾・本田・入谷 5:11.793
 - 4 東北学院大学 岡部・北野・牧野・和田 5:14.599
 - 5 立教大学 阿部・倉部・齋藤・稲子 4:58.838
 - 6 東海大学 大塚・高木・南・近藤 5:07.586

- 女子500mタイムトライアル
- 1 中尾 友美 筑波大学 39.647
 - 2 大塚 恵美 明治大学 41.210
 - 3 藤原亜衣里 法政大学 41.589

- 女子ス^リット
- 1 中尾 友美 筑波大学
 - 2 藤原亜衣里 法政大学
 - 3 遠山 恵 順天堂大学

- 女子3km個人追抜
- 1 斎藤 綾 順天堂大学 4:21.885
 - 2 大塚 恵美 明治大学 4:29.353
 - 3 中村 珠藻 順天堂大学 4:15.698

第20回西日本学生選手権 (5/6 奈良・奈良競輪場)

- 男子1kmタイムトライアル
- 1 鈴木 昭博 中京大学 1:12.67
 - 2 古市 清隆 北陸大学 1:14.41
 - 3 中川 一利 龍谷大学 1:17.57
 - 4 陸野 圭司 関西大学 1:20.30
 - 5 中川 章弘 鹿屋体育大学 1:23.07
 - 6 黒木 直人 鹿屋体育大学 1:24.07

- 男子ス^リット
- 1 小野 旭裕 京都産業大学
 - 2 河口 誉 中京大学
 - 3 山本 啓太 中京大学
 - 4 廣瀬 健一 同志社大学
 - 5 広瀬 大介 同志社大学
 - 6 山本 訓道 同志社大学

- 男子4km個人追抜
- 1 宮川 拓也 京都産業大学 5:12.13
 - 2 福本 将 京都産業大学 5:14.20
 - 3 小嶋 洋介 京都大学 5:14.47
 - 4 阪田 晋司 立命館大学 5:22.61
 - 5 中里 聡史 中京大学 5:21.72
 - 6 高倉 秀輝 中京大学 5:24.98

- 男子ケ^リン
- 1 松村 友和 関西大学
 - 2 平岩 寿郎 龍谷大学
 - 3 富永 真司 中京大学
 - 4 松井 健 京都大学
 - 5 原 隆裕 同志社大学
 - 6 山我 宗永 北陸大学

- 男子ホ^ル・イ^ント^ル-ス(24km)
- 1 向川 尚樹 立命館大学
 - 2 清水 良行 京都産業大学
 - 3 辻 貴光 立命館大学
 - 4 山本 敬純 立命館大学
 - 5 岩本竜太郎 京都産業大学
 - 6 渡邊 哲平 京都大学

男子リトルバイクリット

1	中京大学	鈴木・河口・山本	1:09.45
2	関西大学	吉井・松村・陸野	1:11.22
3	鹿屋体育大学	小倉・中川・黒木	1:13.45
4	同志社大学	西川・中井・原	1:13.90
5	龍谷大学	平岩・藤田・中川	1:16.01

男子4km団体追抜

1	京都産業大学	宮川・福本・小堺・清水	4:53.77
2	京都大学	井上・松井・渡邊・小嶋	4:59.22
3	立命館大学	向川・辻・森・上田	4:59.69
4	北陸大学	山我・平川・長谷・佐々木	5:10.27

女子500mタイムトライアル

1	野坂 尚由	中京大学	42.50
2	兼子 明子	鹿屋体育大学	43.74
3	稲岡 智子	摂南大学	44.46
4	許斐真由子	鹿屋体育大学	48.18

女子リット

1	野坂 尚由	中京大学
2	稲岡 智子	摂南大学

女子3km個人追抜

1	許斐真由子	鹿屋体育大学	4:32.20
2	兼子 明子	鹿屋体育大学	4:47.56

2001 JCF ジャパンシリーズ J2
(5/13 島根・仁多)

男子リット(39.2km)

1	竹谷 賢二	千葉 SPECIALIZED	2:02:59.97
2	佐藤 貴巳	大分 ROPPO Jamis	2:03:57.52
3	門田 基志	愛媛 焼鳥山鳥	2:11:08.98
4	坂本 裕規	大阪 Panaracer	2:13:21.29
5	橋田淳一郎	東京 TEAMリット	2:14:55.17
6	笹部 勝	大阪 アカド ca	2:15:54.62
7	宮本 泰典	徳島 GTカーゴ	2:16:26.76
8	三井 寿展	宮崎 KONA自転車倶楽部	-1Lap
9	福田 吉孝	福岡 Jamis正屋	-1Lap
10	余語 賢司	熊本 NSFR	-1Lap

男子女子リット(28.0km)

1	高橋いづみ	東京 SY-Nak SP.	1:49:47.75
2	酒井 真清	大阪 チームが飛ぶ	1:57:31.19
3	伊藤真里子	京都 チーム	-2Laps
4	井上 麻衣	福岡 A・B・Club	-2Laps
5	下田 邦子	福岡 Q-MAX ACE	-3Laps

2001 JCF ジャパンシリーズ J1 XC#2
(5/19-20 長野・菅平高原)

男子リット

1	竹谷 賢二	千葉 SPECIALIZED	2:11:31.2
2	西田 和弥	長野 チームA&F	2:13:49.9
3	野口 忍	長野 SCOTT Pa.	2:15:01.8
4	じゅうたろう	大阪 TREK	2:16:21.8
5	檀 拓磨	長野 Jamis MAZDA	2:17:01.0
6	柴田 富夫	北海道 SCOTT	2:17:05.9
7	後藤 清作	長野 GIANT-J	2:17:46.2
8	江下健太郎	愛知 愛三工業	2:18:43.6
9	戸津井俊介	埼玉 スコット	2:18:44.4
10	白石 真悟	大阪 大阪大学	2:19:36.7

女子リット

1	南部 博子	長野 TREK Japan	2:07:11.9
2	中込由香里	神奈川 SY-Nak SP.	2:08:11.9
3	高橋いづみ	東京 SY-Nak SP.	2:20:58.1
4	田中 裕子	長野 BRIKO A&F	2:22:32.7
5	佐藤由布子	神奈川 SY-Nak SP.	2:23:56.4
6	酒井 真清	大阪 チームが飛ぶ	-1Lap

7	森田 正美	神奈川 ARAI・MURACA	-1Lap
8	深井 薫	大阪 FUN RIDE G	-2Laps
9	中沢奈津子	新潟 Amigo	-2Laps
10	榎本 梨絵	岡山 岡山大学	-3Laps

第3回修善寺カップ 2001年女子オープントラック
ロードレース大会(5/19 日本CSC)

500mタイムトライアル

1	中尾 友美	筑波大学	39.113
2	大塚 恵美	明治大学	42.553
3	野坂 尚由	中京大学	42.776
4	村中恵美子	千葉医療福祉大	43.208
5	栗原 松江	筑波大附属坂戸高	45.014
6	川戸はづき	明治大学	45.959

リット

1	中尾 友美	筑波大学
2	野坂 尚由	中京大学

2km個人追抜競走

1	栗原 松江	筑波大附属坂戸高	3:05.831
---	-------	----------	----------

3km個人追抜競走

1	村中恵美子	千葉医療福祉大	4:11.470
2	小谷 翠	NCFR	4:25.794
3	横田 景子	早稲田大学	4:26.236
4	山口真喜子	岩井商会CC	4:36.031
5	山本ひろみ	SWIFT.RT	4:49.498
6	川戸はづき	明治大学	4:51.567

ポイントレース

1	大塚 恵美	明治大学	28 p
2	横田 景子	早稲田大学	16 p
3	小谷 翠	NCFR	14 p
4	藤田 裕子	ALPHAWK	8 p

ロードレース(20km)

1	大塚 恵美	明治大学	39:58
2	村中恵美子	千葉医療福祉大	40:41
3	小谷 翠	NCFR	41:29
4	林 佐知子	千葉医療福祉大	42:54
5	塩原 桂子	HOT STAFF	44:31
6	山本ひろみ	SWIFT.RT	44.54

第3回門田杯2001年U-23ロードレース大会
(5/20 静岡・日本CSC)

男子個人ロードレース(100km)

1	大塚 潤	東海大学	2:58.28
2	小嶋 健	日本舗道レーシング	3:04.16
3	圓谷 崇	日本大学	3:04.16
4	辻 貴光	立命館大学	3:04.19
5	加藤 康則	トップアツク厚木	3:04.20
6	上田 誠	立命館大学	3:04.24
7	櫻川 裕之	セパレーティング	3:04.38
8	綾部 勇成	日本舗道レーシング	3:05.22
9	西谷 泰治	日本大学	3:05.51
10	後藤 正志	日本大学	3:06.15

2001 JCF MTB J1 Series XC#3
(5/27 宮城・仙台泉ヶ岳)

男子リット(36.7km)

1	山口 孝徳	長野 CWS	1:50:45.8
2	竹谷 賢二	千葉 SPECIALIZED	1:52:56.0
3	柴田 富夫	長野 SCOTT	1:53:59.0
4	松本 駿	長野 GT JAPAN	1:54:55.0
5	戸津井俊介	埼玉 スコット	1:55:19.9
6	鈴木 雷太	長野 ブリヂストン	1:55:48.1
7	江下健太郎	愛知 愛三工業	1:57:04.9

8	中山誠一郎	神奈川 CWS	1:57:38.0
9	小笠原崇裕	長野 サイクルマインド	1:58:12.3
10	堂城 賢	長野 GARY FISHER	1:58:46.7

女子リット(30.6km)

1	南部 博子	長野 TREK Japan	1:48:23.1
2	高橋いづみ	東京 SY-Nak SP.	1:57:14.3
3	佐藤由布子	神奈川 SY-Nak SP.	1:58:32.8
4	田中 裕子	長野 BRIKO A&F	2:01:17.5
5	中口 裕代	長野 846 SCHWINN	-1Lap
6	松本こずえ	宮城 SCOTT SEKI	-2Laps
7	窪田 二葉	長野 TEAM A&F	-2Laps
8	山本深青子	栃木 team XARU	-4Laps

第35回東日本実業団ロードレース
(6/2 群馬CSC)

BR-1(120km)

1	鈴木 真理	JPCA ツルレーシング	2:58:59.66
2	宮澤 崇史	長野 日本舗道	2:59:07.12
3	橋川 健	JPCA ブリヂストン	2:59:07.25
4	バルセロナ	ESP リンダ・ビエラ	2:59:07.49
5	行成 秀人	香川 ミヤタ・スバル	2:59:09.31
6	田代 恭崇	JPCA ブリヂストン	3:01:05.83
7	テリツカ シノブ	KAZ 日本舗道	3:01:05.97
8	柿沼 章	栃木 キン・スバル	3:01:23.24
9	ギレンムス	ESP リンダ・ビエラ	3:01:50.14
10	中山 大介	茨城 ミヤタ・スバル	3:01:50.38

BR-2(72km)

1	中村 文武	東京 フィット	1:52:35.02
2	宮崎 景涼	神奈川 イキップ アツク	1:52:35.85
3	山本 健一	千葉 チームA&F	1:52:41.01
4	山田 貴史	埼玉 スミタハ	1:52:41.41
5	高梨真幸人	東京 Vitesse	1:52:44.00
6	須田晋太郎	神奈川 チームA&F	1:53:48.48
7	立石 礼正	栃木 ショック	1:53:48.78
8	山辺 誠司	埼玉 ビス	1:53:48.79
9	五島 則夫	神奈川 チームリット	1:53:48.82
10	後藤 輝朗	千葉 日野自動車	1:53:48.82

BR-3(54km)

1	櫻川 裕之	千葉 セパレーティング	1:23:02.55
2	梶 博	静岡 リット	1:23:03.27
3	大川 拓郎	栃木 WADA	1:23:03.28
4	山崎 潤	長野 BM R. ZUNOW	1:23:03.68
5	富田 昌志	群馬 ミノシ市川	1:23:03.69
6	田中雄一郎	神奈川 日本舗道	1:23:03.77
7	有蘭 裕明	千葉 セパレーティング	1:23:03.92
8	新沼 光	埼玉 チームCWS	1:23:03.94
9	大山 謙	長野 BM R. ZUNOW	1:23:04.00
10	福田 崇哉	東京 なるしま	1:23:04.00

女子リット(72km)

1	沖 美穂	山梨 チームアツク	1:53:52.12
---	------	-----------	------------

女子オープン(48km)

1	伊与田尚加	静岡 ミノレーシング	1:24:11.71
2	小高セツコ	埼玉 埼玉	1:31:30.98
3	仁藤ひとみ	福井 スカレーシング	1:36:49.09



加盟団体住所変更のお知らせ

静岡県自転車競技連盟

〒430-0811 静岡県浜松市名塚町226 名塚住宅401
志田 興一 様方
TEL & FAX: 053-464-7502

熊本県自転車競技連盟

〒860-0073 熊本県熊本市島崎2-37-1
熊本市立千原台高等学校内 中田様
TEL & FAX: 096-355-8006

全日本実業団自転車競技連盟

〒107-0052 東京都港区赤坂1-9-15
日本自転車会館2号館B1階(社)自転車協会内
TEL & FAX: 03-3588-1755

全国高体連自転車競技専門部

〒336-0017 埼玉県さいたま市南浦和3-21-8
小松原高校内
TEL: 048-885-1488 FAX: 048-882-7499

事務局人事異動

< 新人事 >

事務局次長(兼)業務部長事務取扱

高橋 友彦

総務部部長

田崎 昭司

選手強化部部長

名畑 陽二

業務部次長

志摩 謙治

業務部競技課課長

岩橋 浩之

選手強化部選手強化課課長

齋藤晃一郎

特命参事

板鼻 昭

前号、「新役員の紹介」で内村俊一氏(顧問)の勤務先が誤っていました。
正しくは、財団法人 自転車産業振興協会 です。
お詫びして、訂正いたします。

連盟の動き (5月中旬～6月上旬)

- 5月 8日 シクリスムエコー編集会議
15日 トラックワールドカップ第1戦代表選手強化合宿(～5/18) 於: 修善寺
21日 トラックワールドカップ第1戦日本代表選手団出発(帰国 5/30) 於: コロンビア・カリ
30日 職員会議
31日 ジャパンカップ2001推進・実行委員会 於: 宇都宮市
2001世界室内選手権日本大会実行委員会・総会・専門委員会・決起大会 於: 鹿児島県加世田市
6月 2日 平成13年度選手強化に係わる打合せ 於: 岩手県紫波町

編集後記

今日、政府のサイトで高い評価を得ているのが、昨年12月に開設されたイギリス政府の「UKオンライン」。市民生活上必要なあらゆる情報をキーワードで検索できるほか、項目ごとに簡単に探せる。

またアメリカでは、昨年9月にオープンしたアメリカの「First Gov」も2000を超えるアメリカ系サイトにある3000万ページ分の情報が検索でき、法律や連邦議会の議事録はもちろん、アメリカ証券取引委員会(SEC)が持つ各企業の経営情報や4000を超える世界の医学雑誌の記事など、学術研究やビジネスにもすぐに役立つ内容であり、オンライン手続きも充実し、パスポートの申請、年金関連の各種手続きから、国立公園のキャンプ場予約まで可能だそうです。

これに比べ日本の総合窓口「電子政府の総合窓口」は、データの整理が悪く、また量少ない。キーワードで検索しても必要な情報の入手が難しい(未区分。議事録ばかり)。これでは市民のための行政という姿勢がサイトに体现されていない。やはり行政は、市民サービスという視点から仕事内容を整理することが必要であると思われる。

さて、日本自転車競技連盟のホームページについても、現在新広報委員会で検討しておりますが、例えば主大会の実施要綱やリザルトのタイムリーな掲載や各車連の住所、メールアドレス、本誌シクリスムエコーの掲載などが早急に着手されなければならない内容と考えています。また、今後の課題として、世界の有名な大会、例えばツール・ド・フランス、世界選など自転車競技に関する情報をいち早くアップすることや、その他ライセンスの申請、大会のエントリー、競技規則集の掲載、トレーニングマニュアルの掲載、規則の説明など、まだまだこれ以外にも見てみたいニュースがたくさんあると思います。

これからは、日本自転車競技連盟もホームページを最大限、有効に使えるよう努力したいと考えています。

(中西 泰三)



シクリスムエコー No.77 2001年6月号

発行/財団法人 日本自転車競技連盟

発行人/岩 楯 昭一

編集人/村 田 統 司

編集事務局/財団法人 日本自転車競技連盟 事務局

〒107-0052 東京都港区赤坂1-9-15 日本自転車会館内

TEL 03-3582-3713 FAX 03-5561-0508

URL <http://www.jcf.or.jp/>